

まんがで知る

ケア・インターナショナル ジャパン

制作: CAREまんがボランティア 宮本尚



1. ケア・インターナショナル ジャパンとは

ケア・インターナショナル ジャパン(ケアジャパン)は
世界90ヶ国以上で人道支援を行う国際協力NGO
CARE International の一員です。

災害時の緊急・復興支援や「女性と女子」の自立支援を通して
貧困のない社会の実現を目指しています。

...近年使用している標語は
「変える、女性も女子も活躍する豊かな世界に」。



CAREが
支援事業を行う
地域の多くは

水道や電気
ガスがない



水を汲んだり 燃料にする薪をあつめて
家まで運ぶ



スーパーや
コンビニなども
もちろんない

作物を育てたり 家畜を飼ったり
食料は自分たちで用意する

トイレや
ゴミ処理場は
整備されていない

満身に食事ができず
十分な栄養が採れないときもある

栄養失調で体力が落ちていると
衛生状態の悪い環境では病気にもかかりやすい



今の日本での
自分の生活と
全然ちがいます…

そうですね

でも世界全体では
そのように不便な状況で
暮らしている人たちのほうが
ずっと多いんです

その中で
女子たち 女性たちは

毎日の生活のために
子どもたちは
家事を手伝います

だから勉強をしたり
学校に通う時間はなく
通えたとしても男子が優先され
ることがほとんどです

まだ幼いうちから水汲みや薪ひろい
下のきょうだいの世話などをして
一日中働いている

多くの地域では伝統的に
家事は女性の仕事とされ

やがて周りに決められるままに結婚をし
子どもを産む
家計を助けるため幼い年齢で結婚をさせられたり
売られてしまうことさえある

女性たちは家族のために
毎日働いているのに
その立場が尊重されず
男性たちの意見に
従わなくてはなりません

反面 働きに出る女性たちは
女性であること教育を受けて
いないことなどを理由に
給料や地位の低い仕事
にしか就けないでいます

だけど

そんな最も貧しい地域で
最も弱い立場にある
女性たち 女子たちが

学校に通えるように
なったら？



自分たちの力で
お金を稼げるように
なったら？

夫たち男性たちと
対等に発言できるように
なったら？

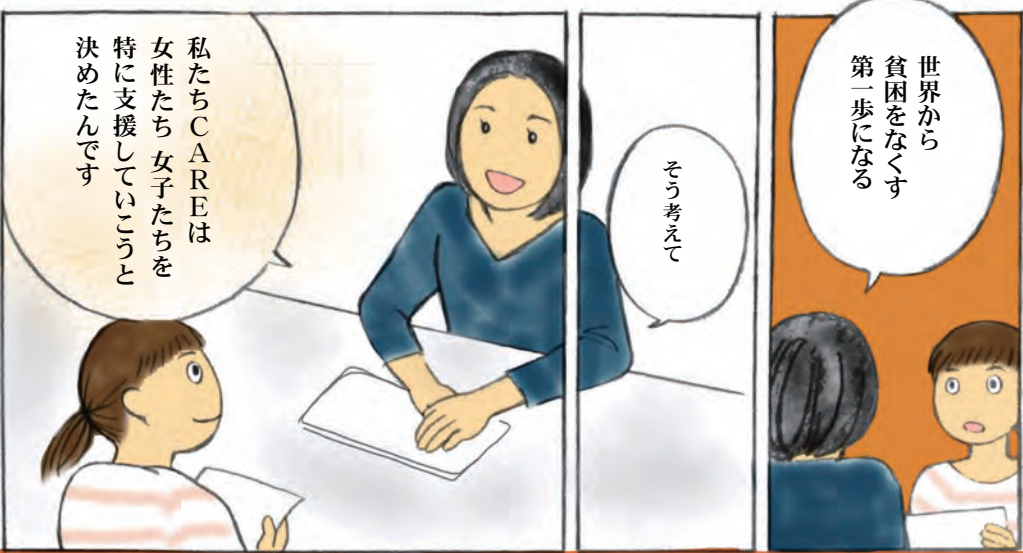


得られた知識と収入
によって
彼女たちの生活が
以前よりも豊かになる

彼女たちは
以前よりも自由に
自分の意志で行動
できるようになる



そうした変化が
世界中の貧困地域で
起きれば



2. ケアジャパンの事業 ① 女性と女子の自立支援





やってみましょう！
どうすればよいかは
一緒に考えて
いぎましよう！



このとき
男性たちだけでなく
女性たちとも共に考え
行動していく

技術を身につけた女性たちは
自分の力で収入を得ることが
できるようになり
それを自分の自由により
子どもたちや家族のために
自分のために使っていく

男性たちも
そんな女性たちの
意見や考えに
耳を貸すようになる

そうやって少しずつ
社会の中で
女性たちの
活躍の場が広がっていく

このほかにも

- 女子教育
- 母子保健

の分野に注力しています！

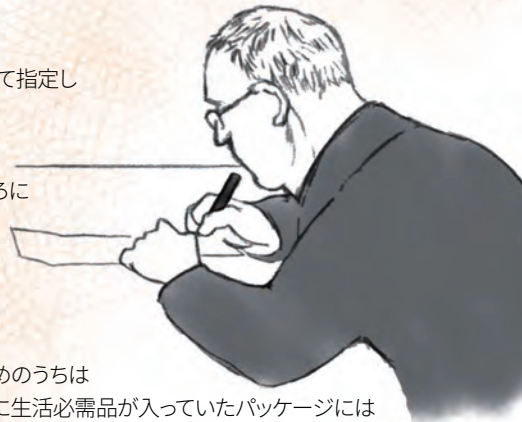


3. CAREのはじまり

第二次世界大戦で被害を受けた
ヨーロッパの人々を助けたいと
考えたアメリカの二十二の市民団体が
CAREを設立し
救援物資を送ったことがはじまり



市民たちは
CAREに寄付をすることで
ヨーロッパの親戚や友人に
パッケージを送ることができた



例えば

原爆が投下された 広島 長崎に住む人たちへ

地上戦のあった 沖縄に暮らす人たちへ



病気をわずらっている人
家を持たず船上で生活する人
障害を持つ人



CAREパッケージは
その後八年間にわたって
約一千万人の日本人にも
届けられた



苦しい生活を送る
最も弱い立場にある
たくさんの人々へ



貧困地域の多い
アジアやアフリカの
国々に住む人たちに
何かしたい

この
恩返しをしたい

パッケージを
受けとった一人が
大人になったとき

と考へて
一九八七年に
CAREの
日本事務所を作った



助けを必要と
している人たちに
何かしたい。

助けてもらったら
そのお返しをしたい。

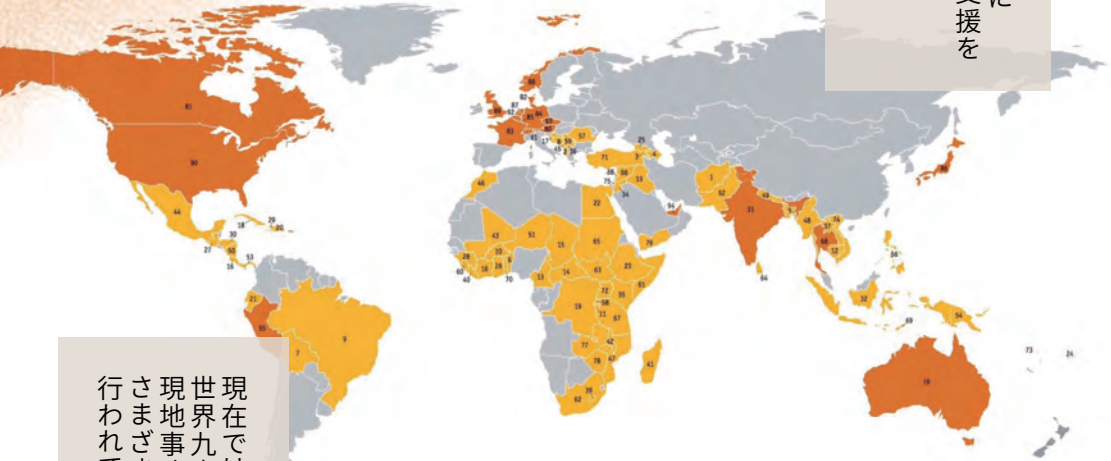
その気持ちが
すべてのはじまり
なんです

今日手伝いに
きまぐれに
あなたは同じ



日本と同じように
戦後CAREの支援を
受けた国々では
次々に事務所が
設立され

2016年度にCAREが事業を行った国々 1~78



現在では
世界九十ヶ国以上に
現地事務所が開設され
さまざまな支援事業が
行われている

- | | | |
|-----------|-------------------|----------|
| CAREメンバー国 | 79:オーストラリア | 86:日本 |
| | 80:オーストリア | 87:オランダ |
| | 81:カナダ | 88:ノルウェー |
| | 82:デンマーク | 55:ペルー |
| | 83:フランス | 68:タイ |
| | 84・85:ドイツ・ルクセンブルク | 89:英国 |
| | 31:インド | 90:アメリカ |



4. ケアジャパンの事業 ②緊急支援



緊急支援の専門知識を
身につけたスタッフが
被害を受けた地域に行く

地震や台風など
大きな災害が起きた
ときは



ケアジャパンは
日本にいる人々や企業から
支援金をあつめて
現場で使用してもらう



逆に
東日本大震災
のときには

ほかの国々の
CARE事務所で
あつめられた支援金が
ケアジャパンに届けられた

CARE Internationalもケアジャパンも
日本で緊急支援を行ったのは
このときが初めてだった

ケアジャパンは

今まで訪ねたことのない
CAREを知る人もほとんどいない場所で
地元の人々と一から
関係を築き

そこで生まれたつながりと
各国からの支援金
のおかげで

食糧支援や
生活支援 心のケア
などの活動を
始めることができた



CAREって
日本では意外と
知られてないん
ですね

おもに海外で
活動しているからか
国内での認知度は
まだまだ低いんです
よね...

この経験からも
わかるように

現地の人たちの
つながりが
私たちの事業活動には
不可欠です

どこの国や地域で
どんな事業をするときでも
これだけは同じなんです

5. もう一つの事業とケアジャパンを支える人々

CARE独自の
国際ネットワークや
現地でのつながり

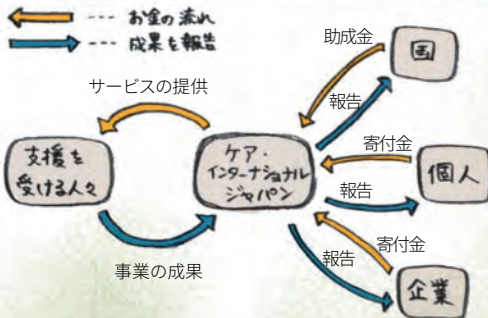
各メンバー国の
事務所や
現地で働くスタッフ
などの人材

これらのほかに
あと一つ

私たちがやりたいことの
実現のために必要なもの
…何だと思いませんか？

？

お金です



国からの助成金と
個人や企業からの
寄付金を使うことで
事業を行っているのだ

ケアジャパンは
企業のように
お金を稼ぐ事業は
行っていない

行政のように
個人から義務として
お金を徴収したりも
していない

女性と女子の
自立支援も
緊急支援も

国や民間企業が
メインでやる事業では
ありません

私たちはお金を頂きながら
そうしたサービスの提供を行う
非営利団体なんです

ではどうやって
得ているんですか？





寄付金を募るときには
個人や企業にCAREと関わることによる
メリットを提供できるようにすることが重要

さまざま
工夫アイデア提案
が必要なんです



助成金の申請を行うときは
自分たちの実現したいことであると
同時に その意義や重要性が認められる
ような事業計画を練る

もちろん
お金は
そう簡単には
得られないので



2012年から 毎年開催されている
ウォーキングイベント「Walk in Her Shoes」

参加費が寄付金として
使用される

なので
会員となつて寄付を
して下さる方々
イベントに参加して
くださる方々 など

個人からの支援は
ほんとうに
ありがたいです

定期・不定期で寄付を行う
個人会員

子どもの頃にCARE/パッケージ
を受けとったことのある人
世界の貧困に関心を寄せる
など 動機はさまざま



学習雑誌「ラファエック」事業



東ティモールの人々に学習雑誌「ラファエック」を配る資金を
あつめるため 参加者は募金を行なったり 関連イベントに足を運ぶ

学生や社会人からなる
「ファンディング(資金調達)・ボランティア」
料理教室やチャリティクイズ大会などさまざまな
イベントを企画・開催して収益を寄付している



スタッフの業務の一部を
手伝うインターン
高校生 大学生 社会人など
幅広い年齢層が参加している

だからもし今日の話で
CAREに興味を持つて
もらえたら

またケアジャパンは
スタッフの人数も
限られているので
ボランティアやインターン
として労力を提供して
くださる方々の存在に
とても助けられています

日本全国に8つある
ケアジャパンの「支援組織」

その地域で想いを持つ人たちが
チャリティイベントやバザーを開催し
収益を寄付している



翻訳や編集のプロによる
自身の専門分野を活かした
ボランティア

ご自分に合った形で
ぜひご協力いただけたら
うれしいです！



ようこんで！



CARE International (ケア・インターナショナル)の

ビジョン(目指すこと):

CAREは、貧困のない、すべての人々が尊厳を持って安心して暮らせる、希望に満ちた、寛容で公正な世界を目指します。

ミッション(使命としていること):

CAREは、人々の命を守り、貧困をなくし、公正な社会を創ることを使命とし、世界中でその実現に向けて取り組みます。

フォーカス(着目していること):

CAREは、女性と女子を活動の中心にすえます。
貧困をなくすためには、女性と女子を含むすべての人々が平等な権利や機会を得る必要があるからです。

このまんがを手にとってくださいあなたへ

身近な人を大事にする愛情も、遠い存在に想いを届けるのも、ともに、英語ではcareと言います。

国際協力NGOであるCAREの活動は、始まりから一貫して、人が人を想うcareの気持ちが地道な行動として表れたものです。

そしてその行動が関係する全てのひとの人生を豊かにしてきた、また、それが受け継がれていくのだと信じています。

CAREまんがを通じて、作者を始め多くの人たちのcareの気持ちを感じ取っていただければ嬉しいです。

(事務局長 池田卓生)

私たちの活動は、様々な人たちに支えられて成り立っています。このまんがは、その証しです。誰にでもわかりやすい形でCAREの活動を紹介するにはどうしたらいいのかと悩んでいる時に、このまんがを描いてくださった方との出会いがありました。

まんがを通じて、一人でも多くの方と出会い、そして活動の輪がさらに広がっていくことを切に願っています。

(広報 甲斐博子)

公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン

〒171-0031 東京都豊島区目白2-2-1 目白カルチャービル5階

TEL: 03-5950-1335 FAX: 03-5950-1375 Email: info@careintjp.org <http://www.careintjp.org>

※本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを強く禁じます。